

令和7年度 第8回理事会

日時：令和8年1月27日（火）：19：00～

場所：Zoom（オンライン）

参加者：理事：磯野、高村、小林、有泉、井村、大西、平賀、鮎川、渡邊、古屋、菊池、鈴木、上田、山下

部長：丸茂、藤原

欠席者：なし

慶事： 0件 弔事： 0件

施設数：187施設

会員数：910人 【施設会員864人/在宅会員46人】

休会員数：232人（1月25日現在25.5% 前回23.4%）

【審議事項】

1. スポーツ理学療法部部長兼任について（業務推進局）
2. 糖尿病対策推進委員会 研修会（ZOOM）について（糖尿病対策推進委員会）
3. R7年度第2回こども福祉部研修会について（こども福祉部）

【報告事項】

1. 2025年度第4回学術研修会開催報告（学術研修部）
2. 2025 JOC杯 U20・U17 全国予選大会関東ブロック大会について（レスリング）（スポーツ理学療法部）
3. 令和7年度 生活期リハビリテーション研修会 開催報告：山梨県リハビリテーション専門職団体協議会
訪問リハビリテーション委員会 主催（訪問理学療法委員会）
4. 日本糖尿病理学療法士学会 糖尿病対策推進に関する情報交換会 参加報告（糖尿病対策推進委員会）

【事務管理局】

- ・次年度の事業計画、予算の作成について
次年度の事業計画と予算がまだ提出されていない部・局があります。お忙しいところ恐縮ですが、2月6日（金）までに、各担当副会長に提出をお願いします。
- ・次年度の予算は現状－50万程度になっている。士会収入は減るが、事業収入が会費をいただくようになっているが、現状マイナスでの予算。基金の特別事業等積立基金は関ブロ学会から370万程度の返金。什器備品購入積立基金の5-600万円で使い道考えていく。
- ・局として動く時の予算は、今まで部の中の予算に入れ込んでいた。予算書を変更し、局としての費用がある場合には予算として上げていく。
LINEWORKS フォルダ：監事・理事・部長・委員長⇒定期総会⇒2026年度⇒事業計画フォルダ 予算フォルダ
- ・PCが30日に納品になりますので、事務管理局で調整していきます。
- ・理事会の資料について
期日までの提出をお願いします。期日を過ぎての提出は、議事に追加をしていただき、トークヘアップをお願い致します

【磯野会長】

- ・今年も宜しくお願いいたします。
- ・関東甲信越ブロック理学療法学会の監査を谷村先生、斎藤先生にお願いし、士会長会議で報告し終了する。
- ・関東甲信越ブロック理学療法学会の収支から 370 万円ほど士会に返金予定。
- ・選挙があるため、ご協力をお願いしたい。田中まさしさんが衆議院選挙の東京ブロックの比例にでている。堀内さんと中谷さんを士会、連盟、専門職団体協議会で応援していく。2/2 の意見交換会への参加について、職場の方へのご協力をお願いした。
- ・産業保健の分野の研修会を開催し来年につないでいき、今後は部ではなくてまず委員会、委員会として組織図に反映させていきたい。

【産業保健分野に関する委員会についての意見】

- ・委員会で進めていただきたい、以前応募していただいた方をスタッフに参加を依頼してみてもどうか。
→部員の選出の時には、声をかけさせていただく。
- ・反対意見はなし、次年度の計画に入れていく。

【関東甲信越ブロック理学療法士学会の収支報告】

- ・収支で 714652 円と使用しなかった 300 万円を合わせて士会へ返金できる。
- ・会員数が少ない県は費用面に関して負担になり、今後の学会の在り方を考えていただきたい旨を士会長会議で提案していく。

【理学療法士の賃上げについて】

- ・協会から賃上げに関してメールがあった。賃上げに関しては、所属する院長や施設長に申し入れをする必要がある。対応として、協会から士会三役の施設への訪問等の提案がある。しかし、理学療法士以外が対象ではないため、各事業所の判断に委ねていきたい。内容について、会員へ案内するかどうか。
- ・それぞれの施設で意見が出た場合に、三役へ対応の問い合わせが来る可能性もあり、会員全体ではなく、管理者とのネットワークへ案内を送ることは良いと思う。
- ・理事のトークへ案内を送る。

【 審 議 】

提出者	古屋 伴仁	部局名	業務推進局 スポーツ理学療法部
議 題	スポーツ理学療法部部長兼任について		
内 容 および 提出趣旨	今年度 10 月より、スポーツ理学療法部長が森田伸哉（ふじた整形外科）へ変更となったが、公私ともに多忙なため業務遂行が困難であり迷惑をかけてしまうため、退任したとの申し入れがあった。 そのため、スポーツ PT 部員でもある古屋伴仁（韮崎市立）が、業務推進局長と兼務することが最善の対処かと考えた。		
	提出資料	無	別紙
提出者の意見	これまで、担当局長、部員としてスポーツ PT 部にに関わり、活動内容、課題等も把握していると考えている。今回、部長を担当することにより、業務分担などを行い、持続可能な体制作りを行っていきたいと考えている。		
	提出資料	無	別紙 枚 資料番号等
主な意見内容 など	・ 古屋先生に負担がかかるが、適任者がいるか、見通しはあるのか。 → 副部長を何名か選出して、業務を振っていき候補を検討していく。		
審議結果	審議 (終了) 継続 ・ 保留 ・ 付託)		賛否 (賛成 反対)
	今年度は森田先生が部長を継続し、次年度は古屋理事の兼務で進めていく。		
	対応部局または理事氏名		
	処理期間 令和 年 月 日 頃		
	次回再検討予定 第 回 理事会 ・ 三役会 ・ 部局会議		
公開度	A (部長 ・ 委員長 ・ 代議員)		B (会 員) C (一 般)

【 審 議 】

提出者	藤田 理恵	部局名	糖尿病対策推進委員会	
議 題	糖尿病対策推進委員会 研修会 (ZOOM) について			
内 容 および 提出趣旨	日 時：令和 8 年 3 月 6 日 (金) 19:00~20:30 (オンライン開催) テーマ・講師：「薬のはなし・運動療法は魔法の薬」 ①「薬のはなし ～PT が知っておきたい豆知識～」 湯村温泉病院 薬局長 薬剤師 三枝 明美先生 ②「魔法の薬！運動療法 ～Exercise is Medicine」 湯村温泉病院 理学療法科科长代理 新井 則善先生 対 象：日本理学療法士会会員 参加費：山梨県士会：1,000 円 他都道府県士会：2,000 円 協会認定更新ポイント カリキュラムコード：区分 4/55：薬理薬物による人間の反応			
	提出資料	無	別紙	
	提出者の意見	開催の承認、対象者並びに参加費の承認、協会アプリの使用について、承認をお願いします。		
		提出資料	無	別紙 枚 資料番号等
	主な意見内容 など	・ 非会員の理学療法士は参加対象にならない。		
審議結果	審議 (終了) 継続 ・ 保留 ・ 付託)		賛否 (賛成 反対)	

	・上記内容で承認		
	対応部局または理事氏名		
	処理期間	令和 年 月 日 頃	
	次回再検討予定	第 回 理事会 ・ 三役会 ・ 部局会議	
公開度	A (部長 ・ 委員長 ・ 代議員)	B (会 員)	C (一 般)

【 審 議 】

提出者	高村裕子	部局名	こども福祉部
議 題	令和7年度第2回こども福祉部研修会について		
内 容 および 提出趣旨	研修会テーマ：山梨県内における小児理学療法の現状について 講師：医療・施設の現場から 有泉静佳（山梨県立あけぼの医療福祉センター） ：クリニックの現場から 荒井望（甲斐リハビリテーションクリニック） ：特別支援教育の現場から 高村裕子（山梨県立あけぼの支援学校・山梨県立甲府支援学校） ：福祉分野の現場から 舟久保一也（児童発達支援・放課後等デイサービス LUPE） ：訪問リハの現場から 宮原宏治（医療法人貴和 訪問看護ステーション洗心・露木耳 鼻咽喉科医院 訪問リハビリテーションつゆき） ＊発表後にフリーデスカッションおよび質疑応答を実施。 開催日時：令和8年3月18日（水） 19:00～21:00 開催方法：zoomによるオンライン開催 参加対象者：①山梨県理学療法士会員、②山梨県内に在勤、在住の医療関係者及び一般 ③学生 参加費：①1,000円 ②2,000円 ③無料 ＊未入会、休会中の理学療法士5,000円		
	提出資料	無	別紙 枚 資料番号等
	提出者の意見 昨年新たに新設されたこども福祉部は、県士会としては初めて「こども」を主体に活動する部であり、今年度は学校保健に関する研修会を1回開催した。 一方で山梨県内においてはこれまで「小児の理学療法」を実践している施設は少なく、限られた状況が続いていたが近年は小児理学療法を行う施設が増加してきているうえ、障害の重度化（医ケア児等）および医療現場以外に関わるセラピストも増えてきている。 そのような状況から、山梨県における小児理学療法の充実とセラピスト間の連携を構築していく一助となる研修会を開催としたい。		
主な意見内容 など	・カリキュラムコード 10-122 小児・発達障害の理学療法 2ポイント		
審議結果	審議 (終了) 継続 ・ 保留 ・ 付託)		賛否 (賛成 反対)
	・上記内容で承認		
	対応部局または理事氏名		
	処理期間	令和 年 月 日 頃	
	次回再検討予定	第 回 理事会 ・ 三役会 ・ 部局会議	
公開度	A (部長 ・ 委員長 ・ 代議員)	B (会 員)	C (一 般)

【 報 告 】

提出者	小林 裕司	部局名	学術研修部
議 題	2025 年度第 4 回学術研修会開催報告		
内 容 および 提出趣旨	第 4 回学術研修会（内部障害研究会共同開催） 日程：2026 年 1 月 11 日（日） 10 時～16 時（休憩 1 時間を含む） ：帝京福祉専門学校（対面開催） 講師：玉木彰先生（兵庫医科大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 教授） テーマ：呼吸理学療法の最新トピックス 受講費用：県士会員 1000 円、県外会員 2000 円、非会員 5000 円、学生無料 参加者：25 名（県士会員 22 名、県外会員 2 名、非会員 1 名）		
	提出資料	無	別紙 枚 資料番号等
提出者の意見	2025 年度第 4 回学術研修会は、「呼吸理学療法の最新トピックス」をテーマに、兵庫医科大学リハビリテーション学部 理学療法学科 教授 玉木 彰 先生を講師に迎え、対面にて開催した。本研修会では、急性期および慢性期の呼吸不全に対する理学療法の最新の知見に加え、呼吸機能のフィジカルアセスメント、呼吸介助、胸郭可動性改善方法など、臨床の基本となる評価・治療手技について、実技を交えながら講義いただいた。 また、近年提唱されている呼吸サルコペニアの概念も含め、呼吸理学療法における基本的な評価および治療手技を正確に実施する重要性を体感できる内容であった。対面開催ならではの实技中心の構成により、参加者からは「さらに時間をかけて学びたい」といった好意的な意見が多数寄せられ、非常に有意義な研修会であったと考える。 一方で、研修会案内に記載した参加申込用 Google フォームの内容に誤りがあった。本件における対象者は県士会員であったため、個別に連絡し、参加費の過剰な徴収などは生じず、特に大きな問題に発展しなかった。参加申込者ならびに事務管理局の先生方にご迷惑をおかけした。今後は研修会案内作成時の確認体制を強化し、同様の事例が生じないよう再発防止に努める所存である。		
	提出資料	無	別紙 枚 資料番号等
主な意見内容 など	・ 非会員の取り扱いは、休会の会員は 5000 円としている。非会員や休会の会員の文言も付け加えての案内とする。		
結果	・ 内容は報告の通り。 ・ 今後、休会会員は非会員と同様にし、案内などに休会会員の取り扱いを加える。		
公開度	A (部長 ・ 委員長 ・ 代議員)	B (会 員)	C (一 般)

【 報 告 】

提出者	森田 伸哉	部局名	スポーツ理学療法部
議 題	1) 2025 JOC 杯 U20・U17 全国予選大会関東ブロック大会について（レスリング）		
内 容 および 提出趣旨	1) 大会医務対応の依頼あり 大会名：2026JOC 杯 U20・U17 全国予選大会（関東ブロック）及び 2026 アジア選手権 U15 代表選出大会予選会（関東ブロック） 対応日：令和 7 年 12 月 25 日（木）～12 月 26 日（金） 会場：小瀬スポーツ公園 体育館 対象：U15、U17、U20 関東ブロック対象選手 （男子フリースタイル、男子グレコローマンスタイル） 対応スタッフ数： 12 月 25 日 4 名 古屋伴仁（菰崎市立）、山下太輔（こうの整形）、 安藤駿（健科大クリニック）、斎藤恵介（笛吹中央） 12 月 26 日 5 名 大森英功（市立甲府）、平井郁弥（富士北麓訪看ステ） 高橋謙太（山梨リハ）、古屋美智留（山梨リハ）、柳館匠（加納岩総合）		
	提出資料	無・有	別紙 枚 資料番号等
提出者の意見			
	提出資料	無・有	別紙 枚 資料番号等
主な意見内容 など	・特になし		
結果	・報告の通り。		
公開度	A (部長 ・ 委員長 ・ 代議員)	B (会 員)	C (一 般)

【 報 告 】

提出者	竹中 悠	部局名	訪問理学療法委員会
議 題	令和 7 年度 生活期リハビリテーション研修会 開催報告 （山梨県リハビリテーション専門職団体協議会 訪問リハビリテーション委員会 主催）		
内 容 および 提出趣旨	研修会名：令和 7 年度 生活期リハビリテーション研修会 日時：令和 7 年 12 月 20 日（土）13：30～18：00（13：00 受付） 場所：勤医協駅前ビル 5 階大会議室（山梨県甲府市丸の内 2-9-28） 参加者：14 名（理学療法士 6 名、作業療法士 3 名、言語聴覚士 5 名）＊委員含む 参加費：500 円（資料代） 研修内容： ①講義・グループワーク 内容：フィジカルアセスメント 講師：三輪 道然 氏（甲斐リハビリテーションクリニック 理事長・院長） ②グループワーク 内容：リハビリテーション連携を強化するために 講師：柴田 佳介 氏（巨摩共立病院 理学療法士）		
	提出資料	無	別紙 枚 資料番号等

提出者の意見	今回の生活期リハビリテーション研修会では、訪問リハビリテーションに携わる理学療法士として、日々の臨床実践を見直す貴重な機会となりました。フィジカルアセスメントの講義では、在宅という制限のある環境においても、神経学的評価を含めた基礎的評価をより丁寧に行うことの重要性を再認識しました。これまで経験的に判断していた場面においても、感覚・筋緊張・反射・運動制御といった要素を整理し、根拠を明確にした評価を行う必要性を強く感じました。 グループワークでは、山梨県におけるリハビリテーション連携強化をテーマに SWOT 分析が行われ、職種や所属の異なる参加者による活発な意見交換がなされました。地域全体で利用者様の生活を支えるための課題や強みについて、多角的な視点から理解を深めることができました。今回の研修で得た学びを、今後の訪問リハビリテーション実践に活かし、生活期リハビリテーションの質向上に寄与していきたいと考えています。		
	提出資料	無	別紙 枚 資料番号等
主な意見内容 など	・ 特になし。		
結果	・ 報告の通り。		
公開度	A (部長 ・ 委員長 ・ 代議員)	B (会 員)	C (一 般)

【 報 告 】

提出者	藤田 理恵	部局名	糖尿病対策推進委員会
議 題	日本糖尿病理学療法士学会 糖尿病対策推進に関する情報交換会 参加報告		
内 容 および 提出趣旨	日 時：令和7年12月20日（土）10：40-11：40 場 所：幕張メッセ国際会議場 内 容：「都道府県における糖尿病対策推進の現状と課題」 JSPTDM 企画（都道府県糖尿病対策推進）シンポジウム （第11回 JSPTDM 学術大会でのシンポジウムを兼ねて開催） 発表者：濱島 一樹先生（北里クリニック 愛知県） 山下 真由子先生（京都民医連中央病院 京都府） 小川 明宏先生（城西国際大学 福祉総合学部 理学療法学科 千葉県） 永嶋 道浩先生（市立伊丹病院 兵庫県） 参加者：各都道府県士会担当者		
	提出資料	無	
提出者の意見	委員会の大きな目的は、各都道府県にある「糖尿病対策推進会議」への理学療法士会の参画です。今回の発表者ともに、どこに誰に相談してよいのかも分からない手探り状態から、少しずつ前へ進んでいる取組を知る事ができました。各都道府県事情もそれぞれではありますが、山梨県も、参画まではいかないものの、その傘下にある行事や活動には、声をかけてもらえるにはなってきたと自負しています。理学療法士会が、糖尿病運動療法には欠かせない立場となれるよう、今後も地道に活動していきたいと思います。		
提出資料			
主な意見内容 など	・ 特になし。		
結果	・ 報告の通り。		
公開度	A (部長 ・ 委員長 ・ 代議員)	B (会 員)	C (一 般)